

# 公共政策大学院がオンラインセミナー 「カーボンニュートラルとその先に描く北海道の暮らし」を開催

公共政策大学院（公共政策学教育部・公共政策学連携研究部）では、11月12日（金）にオンラインセミナー「カーボンニュートラルとその先に描く北海道の暮らし」を開催しました（大学院法学研究科附属高等法政教育研究センターと共催）。

異常気象が異常とも思われなくなってきた今日、気候変動対策は喫緊の課題であり、我が国として、2050年までにカーボンニュートラルの達成、2030年に温室効果ガス2013年度比46%削減を目指しているところです。本セミナーは、気候変動対策と生物多様性保全への統合的な取り組みへの国際的な重要性認識が高まっていることも踏まえ、自然豊かな北海道におけるカーボンニュートラルと生物多様性保全に向けた取り組みはどうあるべきか、カーボンニュートラルとその先において、

北海道ではどのような暮らしを実現していくべきなのかを考えるべく、企画されました。

本セミナーでは、まず、北海道電力株式会社経営企画室企画・政策グループの南波慎太郎氏から「『2050年カーボンニュートラル』を目指して」と題するご講演、続いて北海道ガス株式会社都市エネルギーグループの鈴木峻太氏から「カーボンニュートラル実現に向けた地域連携の取組み」と題するご講演があり、北海道の主要エネルギー供給企業の取り組みの現状と今後について伺いました。その後、公共政策大学院の中尾文子教授から「気候変動と生物多様性、統合的取組みに向けた課題」と題する講演、続いて環境省北海道地方環境事務所環境対策課の青地絢美氏から「地域の資源を生かし、脱炭素を目指す地域循環共生圏の創出」と

題するご講演があり、自然豊かな北海道において目指すべきカーボンニュートラルの姿や、気候変動対策と生物多様性保全の統合的視点を持つ地域循環共生圏の事例について伺いました。

平日午後の授業時間帯だったにもかかわらず、公共政策大学院内外から53名もの参加を得て、各講演者と活発な質疑応答が行われ、カーボンニュートラルというテーマへの関心の高さが窺えました。

公共政策大学院では、本セミナーのように、社会の第一線で活躍する実務の方々の協力も得ながら、「文理融合」や「理論と実践の架け橋」という特徴を活かした人材育成に資する場を引き続き提供していきます。

（公共政策学教育部・公共政策学連携研究部）



オンラインセミナー プログラム



質疑応答・総括の様様